

## 次期教育プラン策定のためのアンケート結果（教職員）

## &lt;目次&gt;

## 1 回答人数・属性

(1) 回答人数・率 . . . . . P2

(2) 属性 . . . . . P2

2 データの集計方法 . . . . . P3

## 3 設問と回答結果

番号	設問	ページ
1	子どもたちにとって、これからの学校はどのような場所であることが望ましいか	P5
2	ア 今の子どもたちが身につけている資質・能力が、5年前の子どもたちと比較して「優れている」と感じるのは、どのような点か	P6
	イ 今の子どもたちが身につけている資質・能力が、5年前の子どもたちと比較して「劣っている」と感じるのは、どのような点か	P8
3	今の子どもたちが大人になった時に、どのような力が必要になると思うか	P10
4	子どもたちが学校で、困難なことなどに挑戦することについてどう思うか	P10
5	学校で「主体的・対話的で深い学び」を実践できているか また、その成果や課題は	P11
6	学校で「個別最適・協働的な学び」を実践できているか また、その成果や課題は	P12
7	「子どもまんなか社会」を意識した取組を学校で進めているか また、現在取り組んでいることや課題は	P13
8	勤務する学校は、子どもにとって「安全・安心な居場所」になっているか	P14
9	勤務する学校が、子どもにとって「安全・安心な居場所」として機能するためには、今後どのような取組を進めていくべきか	P15
10	勤務する学校は、「チーム学校」としてチーム力があると思うか	P16
11	「チーム学校」としてチーム力を高めるためには、何が必要だと思うか	P16
12	教職員の仕事をしている中で、どのようなときに幸福感・充実感を覚えるか	P17
13	教職員の仕事をしている中で、どのようなときに悩みや苦しさを覚えるか	P18
14	北九州市や学校が、子どもの教育に関し、今後5年間でどのようなことに取り組んでいくべきか	P19

# 1 回答人数・属性

## (1) 回答人数・率

	対象者数	回答人数	回答率
教職員	5,922 人	1,633 人	27.6%

## (2) 属性

### 年齢

24 歳以下	25 歳～29 歳	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳以上	未回答
90 人	189 人	408 人	338 人	356 人	221 人	31 人
5.5%	11.6%	25.0%	20.7%	21.8%	13.5%	1.9%

### 校種

小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他 (幼稚園、専修学校)	未回答
926 人	583 人	1 人	107 人	14 人	2 人
56.7%	35.7%	0.1%	6.6%	0.9%	0.1%

### 役職

校長	副校長	教頭	園長	主幹教諭	指導教諭	教諭
94 人	0 人	98 人	3 人	60 人	20 人	994 人
5.8%	0.0%	6.0%	0.2%	3.7%	1.2%	60.9%
養護教諭	栄養教諭	学校事務職員	常勤講師	養護助教諭	栄養代理教諭	事務代理職員
73 人	21 人	60 人	144 人	11 人	5 人	6 人
4.5%	1.3%	3.7%	8.8%	0.7%	0.3%	0.4%
教委・課長	教委・係長	教委・指導主事	教委・係員	その他	未回答	
2 人	0 人	2 人	1 人	17 人	22 人	
0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	1.0%	1.3%	

### 勤続年数

5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上 20 年未満	20 年以上 30 年未満
388 人	281 人	393 人	152 人
23.8%	17.2%	24.1%	9.3%
30 年以上 40 年未満	40 年以上	非正規職員 (常勤講師、養護助教諭など)	未回答
294 人	66 人	41 人	18 人
18.0%	4.0%	2.5%	1.1%

## 2 データの集計方法

### 選択肢の中から、1つ選択する設問

- グラフについては、各選択肢に対する割合を集計し、円グラフで表記した。
- 選択肢ごとの回答件数を「総回答人数（1,633人）から未回答の人数を引いた人数」（以下、「回答人数」という。）で割ったものを、各選択肢に対する割合（%表記）とした。

### 選択肢の中から、複数の選択が可能な設問

- グラフについては、各選択肢に対する割合を集計し、棒グラフで表記した。
- 選択肢ごとの回答件数を、回答人数で割ったものを、各選択肢に対する割合（%表記）とした。そのため、各選択肢に対する割合を合計すると100%を超えることがある。

### 自由記述

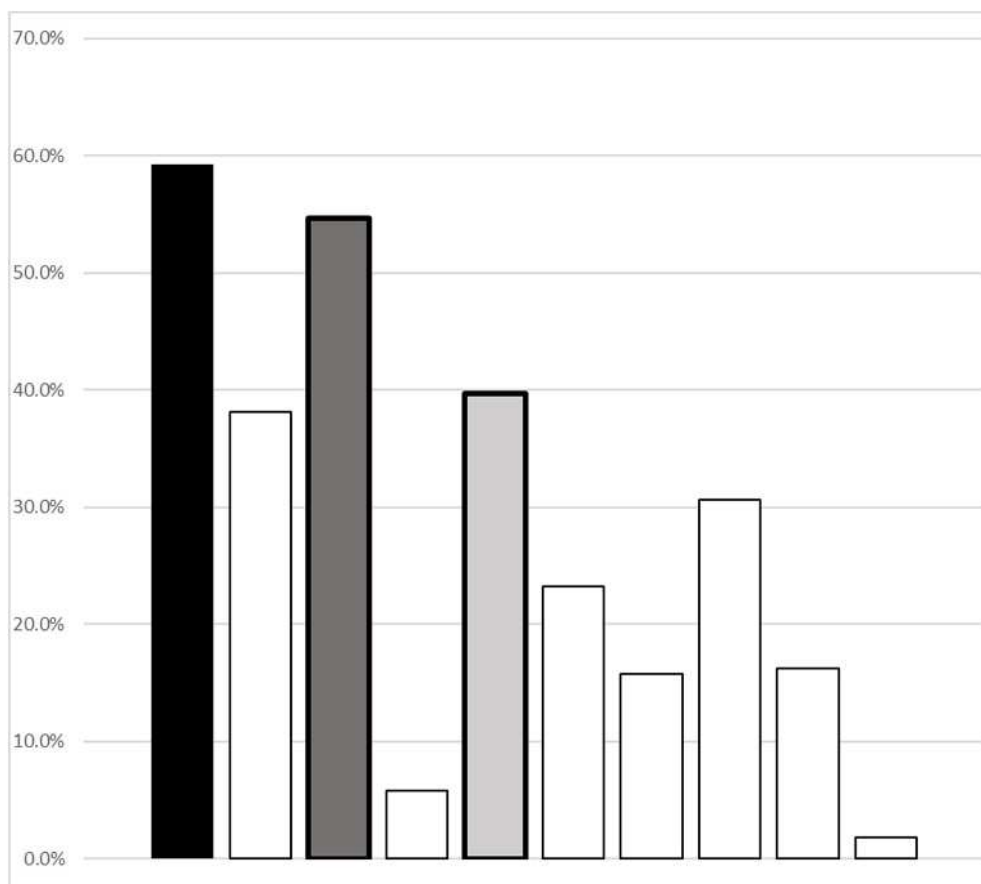
- 記載内容から、概ね10程度のグループを作成し、回答内容をそのグループに紐づけた。なお、1件の回答で、複数のグループに該当する場合は、該当するグループすべてに紐づけた。
- グラフについては、各選択肢に対する割合を集計し、棒グラフで表記した。
- 選択肢ごとの回答件数を、回答人数で割ったものを、各選択肢に対する割合（%表記）とした。そのため、各選択肢に対する割合を合計すると100%を超えることがある。

(このページは白紙です)

### 3 設問と回答結果

1	<p>子どもたちにとって、これからの学校はどのような場所であることが望ましいと思いますか？最大で3つまで選んでください。</p> <p>選択肢にない場合は、「その他」に記入して下さい。</p>
---	--

	回答	件数	割合
	子どもたちが、友だちと仲良く楽しく過ごせる場所	964	59.3%
	家庭以外で、安全に安心して過ごせる場所	621	38.2%
	子どもの好奇心を育て、持っている可能性を引き出して伸ばす場所	890	54.7%
	子どもの意見をよく聞き、子どもも学校運営に参画する一員となる場所	94	5.8%
	礼儀正しさや、高い規範意識・倫理観を身につける場所	645	39.6%
	危険や困難にあっても、自分で自分を守る力を身につける場所	378	23.2%
	授業や放課後で、様々な体験の機会を提供する場所	257	15.8%
	子どもの個性・多様性を深く理解し、子どもが生きづらさを感じない場所	498	30.6%
	指導力に優れた教職員が充実している場所	264	16.2%
	その他	29	1.8%
(総回答件数 N=4,640、回答人数 N=1,627)			

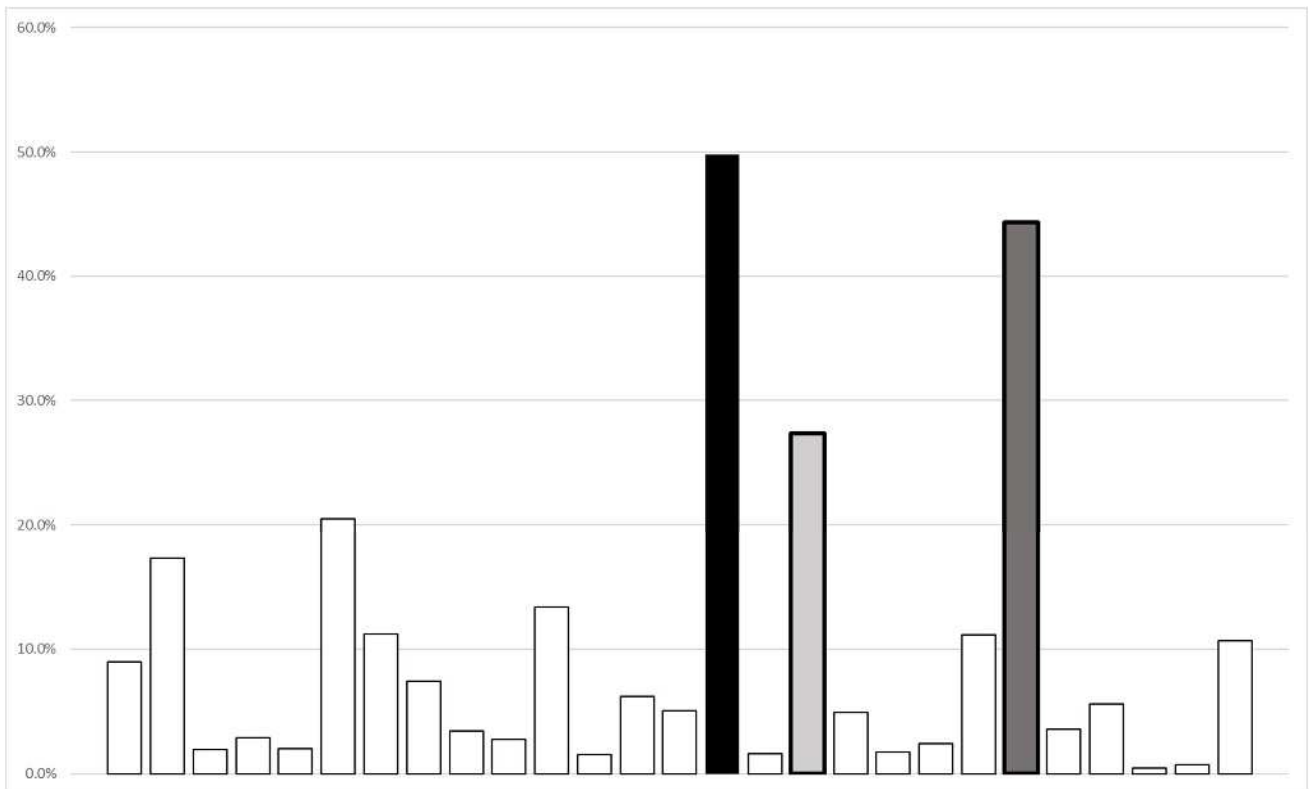


2	<p>あなたの学校に限らず、今の子どもたちが身につけている資質・能力が、5年前の子どもたちと比較して</p> <p>ア 優れている、イ 劣っている</p> <p>と感じるのは、どのような点ですか？</p> <p>ア、イのそれぞれについて、最大5つまで選んでください。</p> <p>どれも「変わらない」と感じる場合は、答えなくても構いません。</p>
---	---

ア 優れている

	回答	件数	割合
	基礎学力	132	8.1%
	表現力	255	15.6%
	読解力	29	1.8%
	数理能力（数学・記号・式を扱うことが嫌いではない）	42	2.6%
	論理的思考力	30	1.8%
	発想力	302	18.5%
	創造力	165	10.1%
	行動力	109	6.7%
	計画的に取り組む力	50	3.1%
	体力	40	2.4%
	社会問題への関心	197	12.1%
	歴史への関心	23	1.4%
	自然環境（人間と自然とのかかわりに関心がある）	91	5.6%
	規範意識・倫理観	74	4.5%
	<b>情報の収集・理解・活用力</b>	<b>734</b>	<b>44.9%</b>
	課題設定・解決能力	24	1.5%
	<b>自己主張・プレゼン力</b>	<b>403</b>	<b>24.7%</b>
	自己肯定感	72	4.4%
	幸福感	26	1.6%
	主体性・意欲	36	2.2%
	他人を思いやる心・協調性	164	10.0%
	<b>多様性への理解</b>	<b>653</b>	<b>40.0%</b>
	人を支え、人から支えられる力	52	3.2%
	コミュニケーション力	82	5.0%
	困難にくじけず対応する力	7	0.4%
	失敗を恐れず挑戦する力	11	0.7%
	遊ぶ力	157	9.6%
（総回答件数 N=3,964、回答人数 N=1,473）			

5年前の子どもたちと比較して「ア 優れている」と回答した項目のグラフ

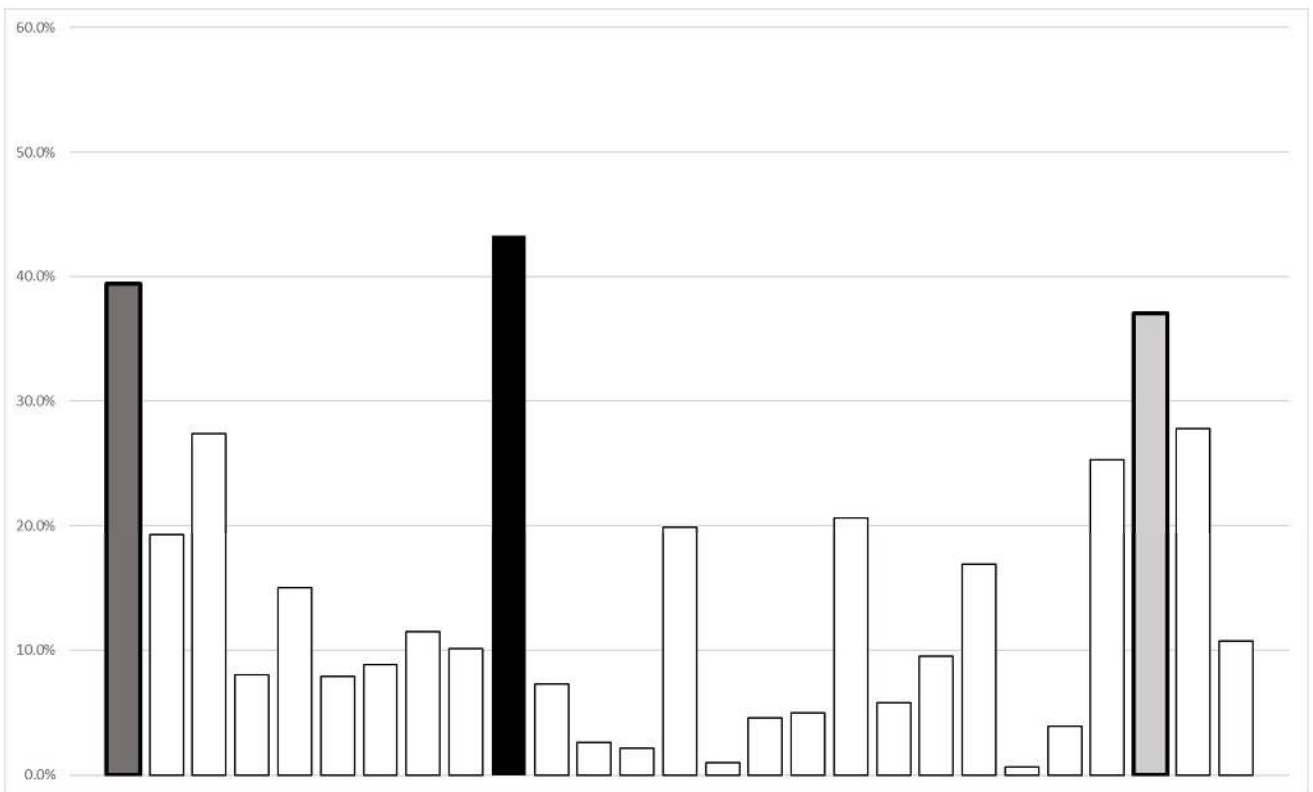


イ 劣っている

	回答	件数	割合
	基礎学力	609	39.4%
	表現力	298	19.3%
	読解力	423	27.4%
	数理能力（数学・記号・式を扱うことが嫌いではない）	124	8.0%
	論理的思考力	232	15.0%
	発想力	122	7.9%
	創造力	137	8.9%
	行動力	177	11.5%
	計画的に取り組む力	156	10.1%
	体力	669	43.3%
	社会問題への関心	113	7.3%
	歴史への関心	40	2.6%
	自然環境（人間と自然とのかかわりに関心がある）	33	2.1%
	規範意識・倫理観	307	19.9%
	情報の収集・理解・活用力	15	1.0%
	課題設定・解決能力	71	4.6%
	自己主張・プレゼン力	77	5.0%
	自己肯定感	319	20.6%
	幸福感	89	5.8%
	主体性・意欲	147	9.5%
	他人を思いやる心・協調性	261	16.9%
	多様性への理解	10	0.6%
	人を支え、人から支えられる力	60	3.9%
	コミュニケーション力	391	25.3%
	困難にくじけず対応する力	572	37.0%
	失敗を恐れず挑戦する力	430	27.8%
	遊ぶ力	166	10.7%
（総回答件数 N=6,055、回答人数 N=1,545）			



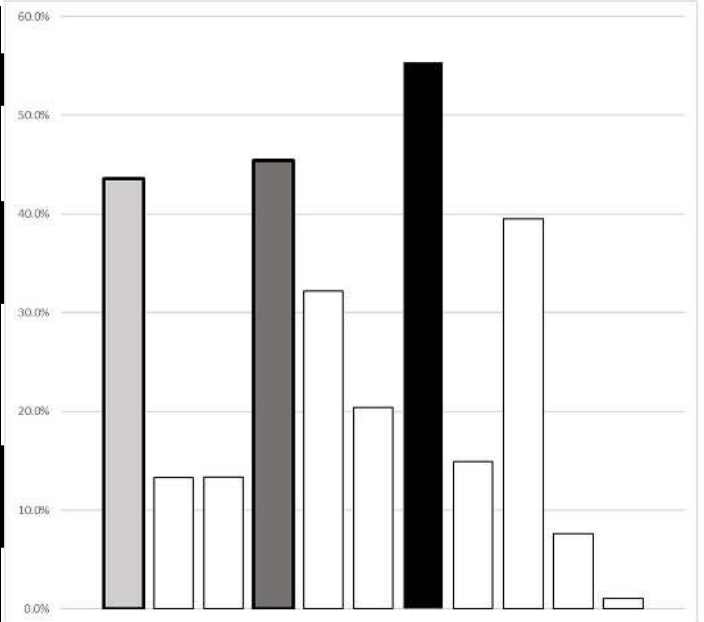
5年前の子どもたちと比較して「イ 劣っている」と回答した項目のグラフ



3 今の子どもたちが大人になった時に、どのような力が必要になると思いますか？最大で3つまで選んでください。  
 選択肢にない場合は、「その他」に記入して下さい。

回答	件数	割合
デジタル化やグローバル化への対応	706	43.6%
論理的思考力、人生観・価値観・哲学	215	13.3%
基礎的な学力	216	13.3%
多様な情報を正しく選択・理解して、活用する力(リテラシー)	736	45.4%
主体的に思考・行動し、挑戦する意欲や力	522	32.2%
課題解決力	330	20.4%
困難にあってもくじけず、しなやかに立ち直る力(レジリエンス)	897	55.3%
国際的なコミュニケーション力	242	14.9%
協調性・思いやり・多様性への理解	640	39.5%
高い倫理観・礼節	123	7.6%
その他	17	1.0%

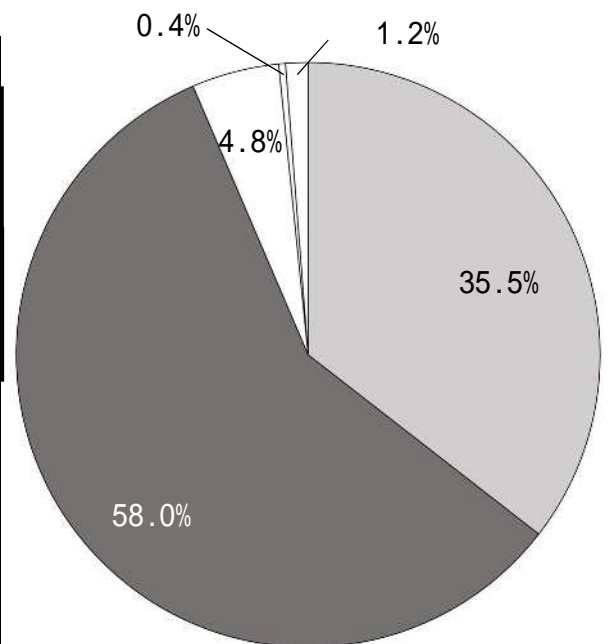
(総回答件数 N=4,644、回答人数 N=1,621)



4 こどもたちが学校で、初めてのことや困難なこと、よりレベルが高いことに挑戦することについてどう思いますか？1つ選んでください。  
 選択肢にない場合は、「その他」に記入して下さい。

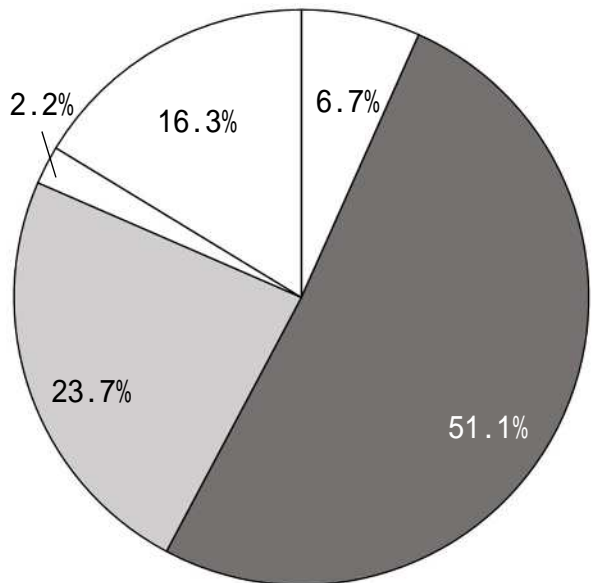
回答	件数	割合
失敗を重ねた方が人間として強くなり、成長もするので、積極的に挑戦させたい	572	35.5%
安心して失敗できるよう、周りがフォローする体制や本人がやり直せる環境を整えた上で挑戦させたい	935	58.0%
成功体験を重ねることで自信をつけさせたいので、失敗をしない程度に挑戦させたい	78	4.8%
失敗から立ち直れなくなるといけないので、できるだけ失敗させたくない	6	0.4%
その他	20	1.2%

(総回答件数 N=1,611、回答人数 N=1,611)



5	<p>あなたは、学校で「主体的・対話的で深い学び」を実践できていますか？ 1つ選んでください。</p> <p>～ を選択した場合は、成果や課題を自由記入欄に記載してください。</p>
---	---

回答	件数	割合
できている	108	6.7%
ややできている	824	51.1%
あまりできていない	383	23.7%
できていない	35	2.2%
授業を担当していないのでわからない	263	16.3%
(総回答件数 N=1,611、回答人数 N = 1,611)		

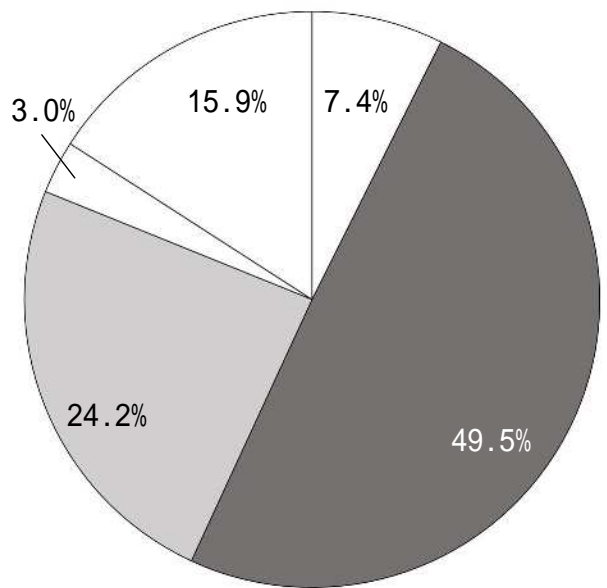


### 成果や課題

	件数		内容	
	件数	割合	成果	課題
できている	83	75	成果	子ども同士で話し合ったり、決めたりできている 子どもが教材を使って自ら学ぶ流れを身につけた ICTを活用して個別最適な学びができている など
		8	課題	個人差があるため対話的の深化が難しい 個別対応のための能力の向上や環境が必要 など
ややできている	509	363	成果	問題解決能力、言語能力、情報活用能力が身につけている 難しい課題でも最後まで取り組む姿勢が身についた 対話を多く取り入れた活動を行っている こどもの実態から、主体的に取り組める授業内容・構成を行った 教員が与えるのではなく、こどもの興味・関心に沿って 順序立て、見通しをもたせながら学習している など
		146	課題	なにか変容が見られたとは感じていない 授業内容の工夫がさらに必要 意識は高いが、実践では教員間の差が大きい など
あまりできていない	209	11	成果	少しずつ自分の意見が言える子どもが増えている 子どもが自ら問いを持つことを意識している など
		198	課題	教員主体で決めてしまうことが多い 基礎学力の定着を図っているので教え込みが多い 深い学びになっているか自信がない 支援学級では個別指導が中心 活動を取り入れているが、改善点は多いと思う など
できていない	26	1	成果	
		25	課題	前提となるこどもの基礎学力が身につけていない 時間配分が難しい 自分が実践すべき内容をよく理解できていない など
(総回答件数 N=827、回答人数 N = 757)				

6	<p>あなたは、学校で「個別最適・協働的な学び」を実践できていますか？ 1つ選んでください。</p> <p>～ を選択した場合は、成果や課題を自由記入欄に記載してください。</p>
---	--

回答	件数	割合
できている	119	7.4%
ややできている	797	49.5%
あまりできていない	390	24.2%
できていない	48	3.0%
授業を担当していないのでわからない	256	15.9%
(総回答件数 N=1,610、回答人数 N=1,610)		

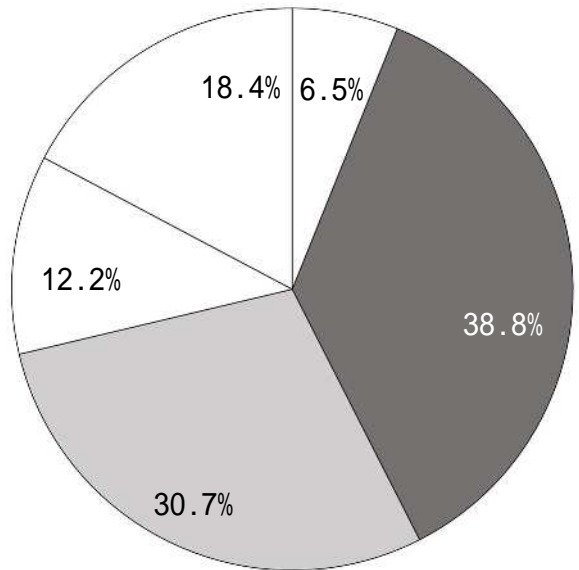


### 成果や課題

	件数		内容	
できている	70	65	成果	子どもたちが適材適所で活躍している 学び合う楽しさを実感して学習に取り組んでいる タブレットドリルによる学びが充実してきた など
		5	課題	成果を子どもたちの間で認め合うことが難しい 大人がみんなと同じを求めるため、子どもも同様に考える など
やや できている	434	323	成果	子どもが自分に合った学習方法を取捨選択できるようになった 得意な子どもが、苦手な子どもへ教え合うことを取り入れている 協働的な学びを意図的に位置づけている 一人一台端末を活用した実践を進めている など
		111	課題	個別に応じた実践はできるが、協働的な学びは 子どもの個性や能力の違いから難しい面がある 自分で学習方法を選択することが難しい子どもに 個別で対応した時、他の子どもへの対応 実践する上では教職員間の連携が必要 意識のアップデートが教員間で大きく二分化している など
あまり できていない	192	11	成果	教え合いと個別指導で、モチベーションと力を引き上げている 個に応じたペースで課題を取り組ませた など
		181	課題	授業に対応できない子どもが多く、全員に対応しきれない クラスの人数が多く、なかなか個別に対応できない 個別指導の時間不足が課題 一年目なので、授業を進めることで精一杯 など
できていない	35	1	成果	
		34	課題	失敗を恐れるあまりにチャレンジする機会に乏しい ICTを活用する上では、子どもも教員もスキルが必要 担任一人で個別をやるには限界がある など
(総回答件数 N=731、回答人数 N=700)				

7	<p>あなたは、「子どもまんなか社会」を意識した取組を学校で進めていますか？1つ選んでください。</p> <p>～ を選択した場合、現在取り組んでいること、今後やろうとしていること、課題などを自由記入欄に記載してください。</p>
---	---

回答	件数	割合
できている	97	6.5%
ややできている	578	38.8%
あまりできていない	457	30.7%
できていない	182	12.2%
授業を担当していないのでわからない	274	18.4%
(総回答件数 N=1,588、回答人数 N=1,588)		



#### 取組や課題

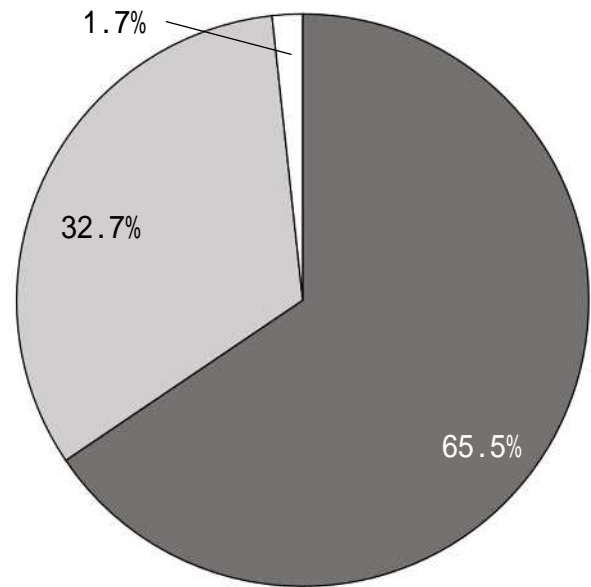
	件数		内容	
できている	61	60	取組	どの取組においても、常に子ども中心に据えている 子どもの自主的な意見による学校改変に取り組んでいる 子どもの意見を聞きながら進めることが多い など
		1	課題	
ややできている	269	242	取組	子どもの思いや自己決定を大切にしている 学習や学校生活におけるアンケートを実施している 子どもの人権や安心して授業を受けられる環境づくりに努めている 子どもと一緒に考えるようにしている など
		27	課題	意見を聞いているが、教員が関わりすぎる面もある 考えが浸透しておらず、やりづらい など
あまりできていない	170	63	取組	教員と子どもの両方の立場で物事を考えている 先に教えたり、指示しがちなので、 子どもの動きや気づきを待つことを意識したい 教育委員会と学校の垣根を取り払いたい など
		107	課題	教員主導の取組が多く、子どもの主体性を生かした取組ができていない 時間と人手が不足している 「子どもまんなか」を今回初めて知ったので、内容を理解するところから始めて、実践したい など
できていない	85	13	取組	言葉は初めて聞いたが、「子どものために」は常に意識して取り組んでいる。 など
		72	課題	子どもまんなか社会を知らなかった、初めて聞いた まずは基礎学力の定着が重要だと考える 仕事が多く余裕がない など
(総回答件数 N=585、回答人数 N=572)				

8

あなたが勤務する学校は、子どもにとって「安全・安心な居場所」になっていると思いますか？ 1つ選んでください。

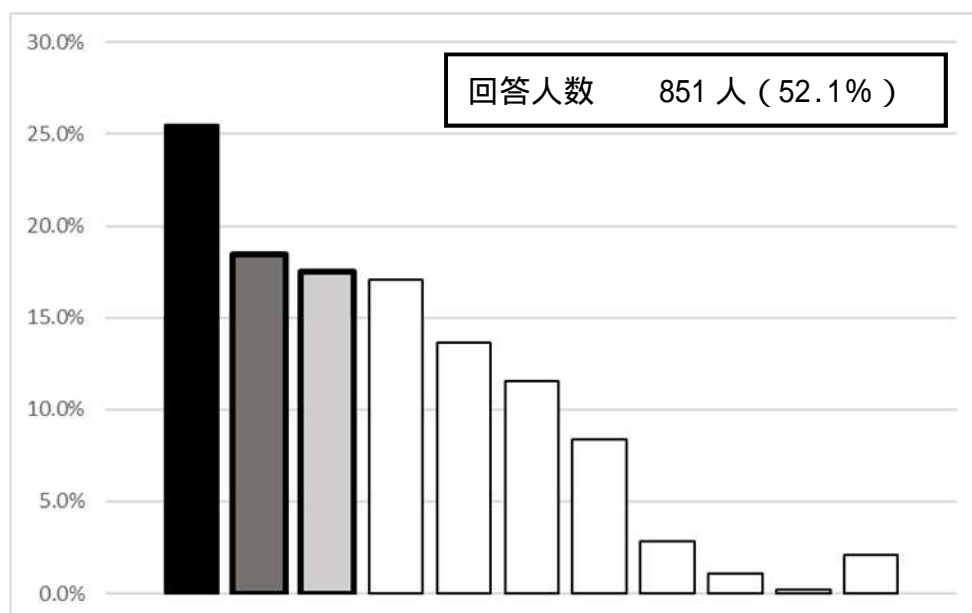
	回答	件数	割合
	なっている	1,031	65.5%
	十分ではない	515	32.7%
	なっていない	27	1.7%

(総回答件数 N=1,573、回答人数 N = 1,573)



9	あなたが勤務する学校が、子どもにとって「安全・安心な居場所」として（より十分な形で）機能するためには、今後どのような取組を進めていくべきか、自由に記入ください。
---	--

	回答	件数	割合
	教職員に関すること（質の向上、ウェルビーイングの実現など） チーム学校としての協働体制の確立、子どもに関する情報共有、 教職員間のコミュニケーション 学校危機管理マニュアルの徹底や研修を通じた資質向上 時間やゆとりの確保、業務改善の推進 など	217	25.5%
	教職員の増加・クラス人数の減少、専門家の活用 教職員の数を増やす、少人数クラス、副担任制の導入 スクールカウンセラーや補助的な教員の採用 など	157	18.4%
	相談体制の充実や居心地の良い学校づくり 相談体制の充実や相談しやすい環境の醸成 不登校やいじめ、問題行動対策の強化、加害者への毅然とした対応 など	149	17.5%
	子どもに向き合う・寄り添う取組の充実 子どもと教職員の信頼関係の醸成や気軽に話せる場づくり 子どもの思いの聴取（アンケートや声かけ、傾聴など） など	145	17.0%
	家庭・地域・企業・関係機関との連携 保護者や地域、関係機関（警察、病院など）との連携強化 開かれた学校づくり、コミュニティ・スクールの推進 など	116	13.6%
	教育内容に関する取組 人権・多様性・他者の尊重や防災教育、特別支援教育の推進 基本的なルールの徹底や規範意識、ネットリテラシーの向上 安心して挑戦や失敗ができる意識・環境の醸成 など	98	11.5%
	学校施設・遊具に関する取組	71	8.3%
	子ども主体の取組の促進	24	2.8%
	教育予算の増額	9	1.1%
	登下校に関する取組	2	0.2%
	その他	18	2.1%
（総回答件数 N=1,006、回答人数 N = 851）			

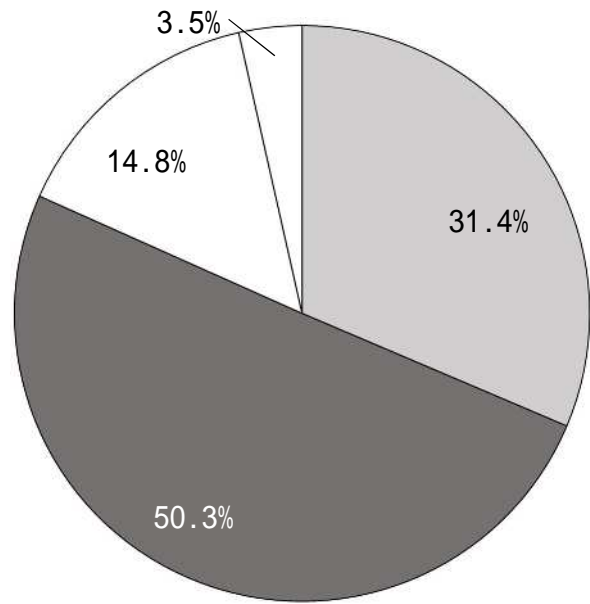




10 あなたが勤務する学校は、「チーム学校」としてチーム力があると思いますか？1つ選んでください。

回答	件数	割合
ある	497	31.4%
ややある	796	50.3%
あまりない	234	14.8%
ない	56	3.5%

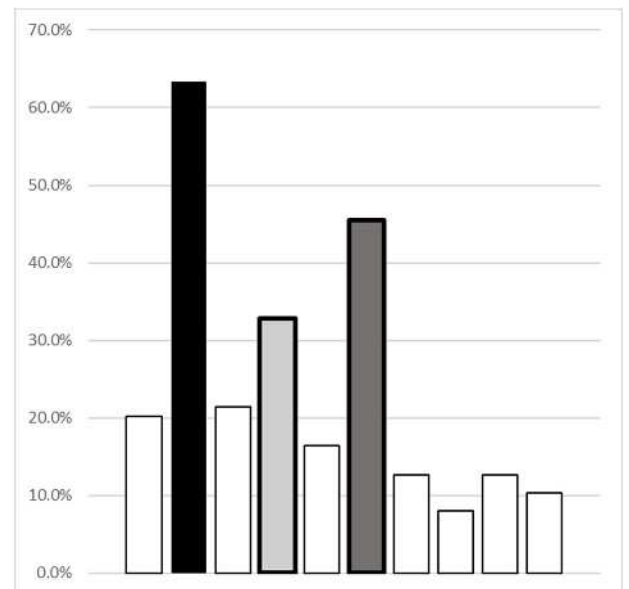
(総回答件数 N=1,573、回答人数 N=1,573)



11 「チーム学校」としてチーム力を高めるためには、何が必要だと思いますか？最大で3つまで選んでください。選択肢にない場合は、「その他」に記入して下さい。

回答	件数	割合
授業方法に関する研修の充実	318	20.3%
学校内での意見交換の機会の充実	994	63.3%
教職員の提案の採用	337	21.5%
校・園長の強いリーダーシップ	516	32.9%
教育委員会によるバックアップ体制の強化	258	16.4%
ワークライフバランスの推進	715	45.5%
休暇取得（男性の育休取得など）に対する理解促進	198	12.6%
他校や他都市の優良事例の展開	127	8.1%
ICTを活用した業務改善の推進	198	12.6%
その他	162	10.3%

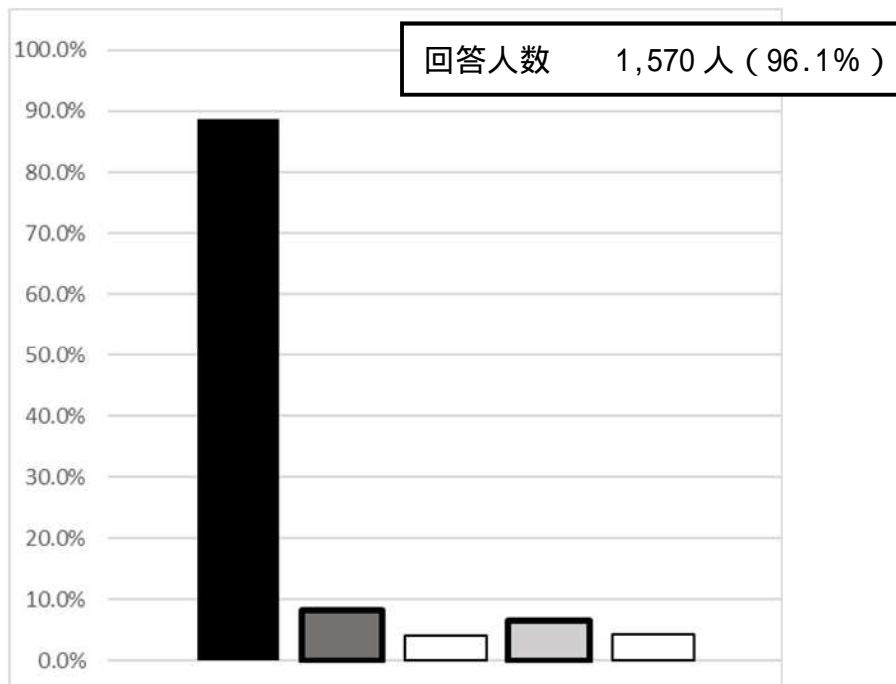
(総回答件数 N=3,823、回答人数 N=1,570)





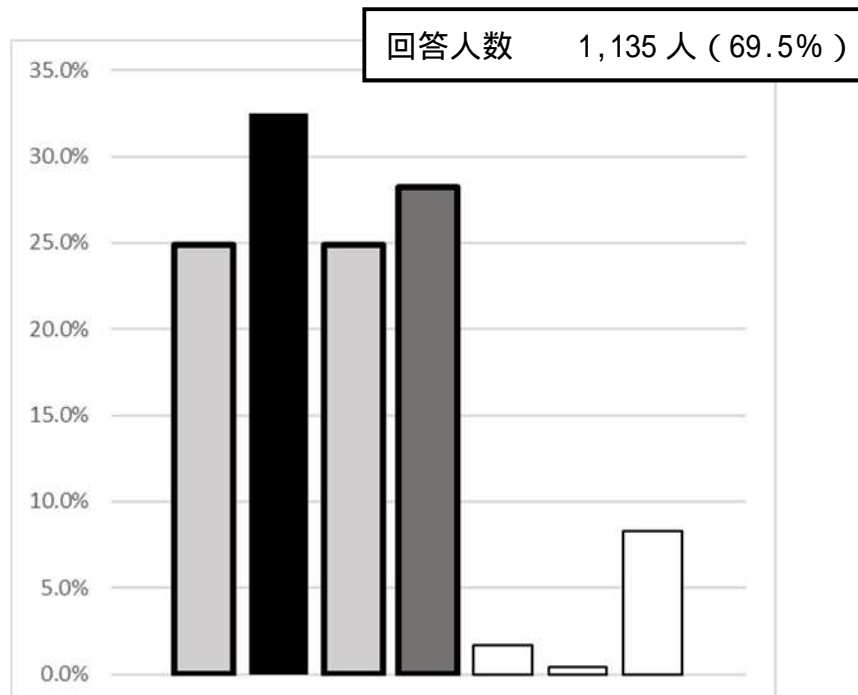
12 教職員の仕事をしている中で、どのようなときに幸福感・充実感を覚えますか。自由に記入してください。

	回答	件数	割合
	<b>こどもに関すること</b> こどもたちの笑顔や成長を感じられるとき ○こどもから感謝をされたとき ○卒業式 こどもが大人になって「あの時、先生が言っていた意味が今ならわかる」 と言われたとき など	1,000	88.8%
	<b>教職員に関すること</b> 自分が職場に役立っていると思えたとき 先輩教諭が話をゆっくり聞いてくれたとき 職員で協力して一つの仕事(学校行事)を成し遂げたとき 職員が、こどもの成長を笑顔で報告してくれるとき など	93	8.3%
	<b>保護者に関すること</b> 保護者に感謝されたとき、信頼関係が築けたとき 来年も担任をして欲しいと言われたとき 保護者からのクレームがないとき など	46	4.1%
	<b>業務の遂行に関すること</b> よい授業ができたときや教材研究をする時間 学校運営・生徒指導上、困難な事案を解決できたとき など	75	6.7%
	その他	49	4.4%
(総回答件数 N=3,823、回答人数 N=1,570)			



13	教職員の仕事をしている中で、どのようなときに悩みや苦しさを覚えますか。自由に記入してください。
----	---

	回答	件数	割合
	<b>こどもに関すること</b> こどもが悩んでいた、苦しんでいたとき こどもの心が教員に向いていないとき 生徒指導がうまくいかないとき 不登校などのこどもたちの支援が上手くいかないとき など	282	24.8%
	<b>教職員に関すること</b> 教員間でチームワークが取れないとき 一人職なので、孤独を感じる時がある 自分の思いを管理職に理解してもらえないとき 違う思いの教員に、どのようにアドバイスするか迷う など	369	32.5%
	<b>保護者・地域に関すること</b> 保護者からの苦情を受けたとき 理不尽な保護者対応 保護者に自分の考えを分かってもらえないとき など	282	24.8%
	<b>業務に関すること</b> 仕事が多く大変なとき、休憩時間がほとんどないとき あゆみや指導要録、採点など事務仕事たまっているとき など	320	28.2%
	<b>教育施策に関すること</b> システム（体制）が古い 文科省や教育委員会の現場の状況を考えない様々な対策 など	19	1.7%
	<b>学校教育以外に関すること</b> 教員では対応困難なネットトラブル など	5	0.4%
	<b>その他</b> 価値観の差が年々大きくなり、学校としてできる事は狭まってきている など	94	8.3%
（総回答件数 N=1,371、回答人数 N=1,135）			



14	北九州市や学校が、こどもの教育に関し、今後5年間で（さらにその先を見据えた視点でも構いません。）どのようなことに取り組んでいくべきか、自由なご意見をお聞かせください。
----	---

	回答	件数	割合
	教職員の増加・クラス人数の減少	279	29.6%
	業務改善（システム導入・業務削減など）	137	14.6%
	教職員の質の向上	128	13.6%
	教育環境の整備	89	9.5%
	学校の役割の明確化	79	8.4%
	授業スタイルの転換（個別最適な学び、ICTを活用した学びなど）	77	8.2%
	処遇改善・魅力発信	73	7.8%
	基礎学力・体力の向上	41	4.4%
	対話	36	3.8%
	安全で安心できる居場所づくり	33	3.5%
	体験学習の増加	29	3.1%
	意識改善（子ども・保護者・地域・教職員）	25	2.7%
	レジリエンス	25	2.7%
	自主性・主体性の育成	17	1.8%
	自己肯定感を高める取組	9	1.0%
	多様な個性を認める学校	9	1.0%
	他者の尊重・思いやり	7	0.7%
	校長のリーダーシップ	5	0.5%
	その他	81	8.6%
（総回答件数 N=1,179、回答人数 N=941）			

